


2018年4月20日
公益財団法人イオン環境財団

みつうん

第2回「中国北京市密雲植樹」を実施

 「日中平和友好条約締結40周年」の周年行事として認定

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、4月28日（土）、中華人民共和国（以下、中国）において「中国北京市密雲植樹」を実施します。

北京市北東部に位置する密雲区は、同市で重要な飲用水水源であり、中国華北地域で最大の密雲ダムを有しています。当財団は、同ダムによる水資源を守り、ダム周辺の水源涵養機能※の向上を目指し、2回目となる植樹を行います。本年は日中両国のボランティア800名の皆さまとともに、地域に自生する樹種の苗木8,000本を植えます。

当財団は、世界が直面する環境問題に取り組むとともに、日中のさらなる友好関係を促進するため、1993年より「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

当財団設立25周年にあたる2015年には、北京市で4回目のシンポジウムを開催し、総括として、2016年からの3年間、植樹活動を継続するとともに、環境教育を推進することを北京市人民政府と合意し、「イオン北京環境提議」を発表しました。

本提議に基づき、2016年に北京市密雲区で1回目の植樹を行い、日中両国のボランティア800名の皆さまとともに7,500本の木を植えました。

なお、本年は「日中平和友好条約締結40周年」にあたり、本植樹は「日中交流促進実行委員会」より周年行事に認定されました。

当財団は、日中の更なる交流促進に貢献し、いのちあふれる美しい地球を次代の子どもたちへ引き継ぐため、今後も環境保全活動に積極的に取り組んでまいります。

記

日 時	2018年4月28日（土）10:30～12:00		
場 所	北京市密雲区不老屯鎮（密雲ダム周辺）		
本 数	8,000本		
参加者	800名		
面 積	14ha		
樹 種	ニレ、ポプラ、ヤナギ、アブラマツ		
主 催	公益財団法人イオン環境財団、北京市人民政府外事弁公室、北京市園林緑化局 北京市密雲区人民政府		
後 援	在中国日本国大使館、中国国家林業草原局国際合作司		
協 力	北京市園林緑化国際合作項目管理弁公室、北京市密雲区園林緑化局 北京市密雲区人民政府外事僑務弁公室、北京密雲区不老屯鎮人民政府、在中国イオン各社		
出席者	北京市人民政府	副市長	廬彦様
(予定)	在中国日本国大使館	公使	石月英雄様
	公益財団法人イオン環境財団	理事長	岡田卓也
	永旺（中国）投資有限公司（イオン中国本社）	董事長兼総裁	羽生有希

以上

※水源涵養機能：森林の土壌が降水を貯留し、河川や湖沼に流れ込む水量を平準化して洪水や濁水を防ぐ機能

ご参考

【中国における公益財団法人イオン環境財団の活動について】

《植樹活動》

■ 1998年～2010年「万里の長城・森の再生プロジェクト」
「日中環境国際シンポジウム」での提案をきっかけに、当財団は1998年から「万里の長城・森の再生プロジェクト」を開始しました。継続的な植樹活動を通じて累計約15,000人の日中ボランティアの方々のご協力のもと、2010年には植樹本数が100万本を超えました。その後、2013年には育樹活動として、木々のメンテナンスなどを行いました。



(2010年 北京市万里の長城植樹)

■ 2005年～2007年「青島市ラオ山ダム植樹」

青島市にあるラオ山ダムは、黄河から水を引き、長く同市の水源として利用されていました。同ダムがその役割を終えたことに伴い、青島イオンが青島市政府から要請を受け、同ダムを市民の憩いの場とするため、青島市城陽区人民政府とともに植樹を行いました。3,493名の日中両国のボランティアの方々が、クロマツ、マルバハゼ、カエデ等30,000本の苗木を植えました。

■ 2008～2011年「山東省烟台市植樹」「山東省威海市植樹」

青島イオンは2008年7月、烟台市で3号店をオープンしました。それを機に烟台市から要請を受け、近郊の辛安河の水源涵養林の育成を目指して植樹を行いました。日中両国のボランティアの方々2,519名が25,000本を植えるとともに、市民間の日中友好を深めました。また同様に威海市において、日中両国のボランティアの方々1,400名が12,000本を植えました。



(2008年 山東省烟台市植樹)

■ 2014年「蘇州市植樹」

蘇州市が擁する中国第三の大きさを誇る淡水湖「太湖」周辺は、護岸工事などの開発により環境破壊が進んでいました。同市による生態系の修復および環境再生の計画に賛同し、700名のボランティアの方々と湖畔の埋め立て地に30,000本の植樹を行いました。東山鎮固有種であり他の地域では見られない柑橘系樹の植樹や育樹を実施し、地域の環境意識の向上を願うとともに、東山鎮の古い町並みや文化を保護し後世へ残します。



(2014年 蘇州市植樹)

《日中環境国際シンポジウム》

当財団は、地球環境の保全が世代と国境を超えた課題であることをふまえ、日中のさらなる国際協力を促進するため、1993年から4回にわたり「日中環境国際シンポジウム」を開催しています。

第1回（1993年）：テーマ「環境問題と人間社会」

「地球の未来を守るために」という共通視点のもと国際協力を促進するため、全体会議および分科会において活発な討論が行われました。海部俊樹元首相が出席され、民間レベルにおける環境協力についての指針がまとめられるとともに、シンポジウムの継続的な開催が合意されました。



(第1回 日中環境国際シンポジウム)

第2回（1995年）：テーマ「環境問題と人間社会」

撫順市での事前実地調査を討論資料とし、特に大気汚染対策に絞って両国の環境協力推進に合意しました。また、廣中和歌子元環境庁長官が出席され、都市の経済発展に伴う環境問題や環境保全の技術、環境法などについて討議が交わされました。本シンポジウム内で、環境保全の必要性和重要性を世界に向けて発信するため、「万里の長城・森の再生プロジェクト」が提案されました。

第3回（1997年）：テーマ「環境問題と人間社会」

海部俊樹元首相が出席され、経済社会の持続的発展に向けて、エネルギー対策と環境保全、水資源及び水環境の確保、経済、社会および環境が調和する発展戦略について議論されました。また、本シンポジウムを契機に「万里の長城・森の再生プロジェクト」の準備が始まりました。



(第3回 日中環境国際シンポジウム)

第4回（2015年）：テーマ「国際社会における環境改善と社会の持続的発展」

グローバルに活躍する両国の専門家・有識者が出席し、環境改善と社会の持続的発展についての討議が交わされました。また、本シンポジウムの総括として、世界に向けて「イオン北京環境提議」を発表しました。



(第4回 日中環境国際シンポジウム)

「イオン北京環境提議」

2016年～2018年の3年間で、下記に取り組むことを表明

1. 新たな植樹活動の取組みを通じた日中ボランティアの交流
2. 日中青少年環境教育活動を協同で取組み環境保全に関する交流の促進

《北京市政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は、2009年、長年にわたる北京市の社会発展に貢献したことが評価され、北京市より「北京市榮譽市民」を受賞しました。

「北京市榮譽市民」は、北京市に貢献した外国人に与えられる最高位の称号で、これまでに世界で32名が受賞しています。日本人の受賞者としては3人目です。北京市で行われた授賞式で、郭金龍（かく・きんりゅう）北京市長（当時）より「北京市榮譽市民」の称号が授与されました。



(「北京市榮譽市民」の称号を受賞)

《武漢市政府からの表彰》

当財団の理事長 岡田卓也は2015年、武漢市国際諮詢顧問団として武漢市の発展に貢献していることを認められ、武漢市人民政府から「黄鶴友誼賞」を受賞しました。

《環境教育》

■武漢市における太陽光発電システム寄贈

当財団は、設立20周年の記念事業として、2009年より再生可能エネルギー活用の啓発・普及と環境教育を目的に、日本・マレーシア・ベトナムの中学校へ太陽光発電システムを寄贈してきました。2014年までに3カ国で35校に寄贈しています。中国では、2015年に発表した「イオン北京環境提議」に基づき、環境教育の推進を願い、2016年より2年間にわたり武漢市の小中学校10校に寄贈しました。



(2017年寄贈 光谷第九小学)

〔寄贈先〕

(2016年) 光谷第九小学、育才行知小学、漢陽区玫瑰園小学、洪山実験外国語学校、江夏区何堰村小学 計5校

(2017年) 武漢市育才第二小学、武漢市育才怡康小学、武漢市新洲区陽邏街第五小学、武漢市陽邏經濟開發区第三小学、武漢市蔡甸区索河中学 計5校

■アジア学生交流環境フォーラム

当財団は2012年より、グローバルな視野で活躍する環境分野の人材育成を目的に、アジアの大学生を対象に「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform: ASEP)」を毎年実施しています。

中国では2014年に開催し、清華大学(中国)、早稲田大学(日本)、高麗大学校(韓国)、マラヤ大学(マレーシア)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)の5カ国80名が参加しました。



(2014年 中国開催 ASEP)

教育プログラムは清華大学監修、早稲田大学協力によるもので、「水と人」をテーマに、北京、天津、内モンゴル、成都などでフィールドワークを実施し、生物多様性について考察を深めました。「ASEP」には、2017年8月実施の第6回(日本開催)までに、8カ国375名の大学生が参加しています。本年8月にマレーシアで実施する第7回ASEPには、9カ国72名の大学生が参加する予定です。